

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.7.5 No.234 連絡先 FAX 042-555-1911



嘉手納基地のF-15C戦闘機が6機次々離陸 戦闘機の飛来増える



6月30日12時32分、在日米空軍・嘉手納基地のF-15Cが3機続けて着陸しました。12時37分 続けてF-15Cが3機着陸しました(左写真)。そして15時7分、嘉手納基地のF-15C戦闘機6機(85-0120,85-0177,85-0104,82-0012,81-0038,81-0034)



が次々に爆音をとどろかせて離陸しました。

調子が悪かったのか40分ほどして2機(81-0038,81-0034)が帰ってきました。

2機戻ってくる前に、万全を期して、消防車、



パトカーなどが待機していました。

7月3日、トラブルがあつて30日に嘉手納基地に戻れなかつたF-15C戦闘機2機(81-0038,81-0034)が13時17分に離陸しました(左写真)。尾翼のZZは嘉手納基地のマーク。

横田基地に大型の空中給油機KC-10が3機と、KC-135が2機が次々着陸

6月29日、大型の空中給油機KC-10が3機と、KC-135が2機次々と着陸しました。

9時35分 KC-135R(60-0350)が。11時10分 KC-10A(TRAVIS 82-0193)が。11時21分 KC-10A(TRAVIS 86-0033)が。11時53分 KC-135R(AETC ALTUS 61-0282)が。11時57分 KC-10A(TRAVIS 83-0077)が着陸しました。7月2日、KC-135R(60-0350)は、離陸しようとして、取りやめました。(右写真)



CV-22オスプレイ用空中給油機MC-130Hが 長逗留して6月29日に離陸



6月5日に飛来した在日米空軍・嘉手納基地のMC-130H(90-0162)が6月29日15時55分に離陸しました。MC-130HはCV-22オスプレイに空中給油します。

MC-130Pは、昨年6月、横田基地を拠点にして航空自衛隊小松基地に行つて自衛隊のヘリコプターに空中給油していました。

三沢基地のF-16戦闘機が2機続けて着陸

6月24日12時44分、米空軍三沢基地のF-16CMが2機(90-0810、90-0824)続けて着陸しました。



例年この時期にアレスティング・ケーブルのチェックのためにやってきます。尾翼のWWは三沢基地のマーク。

17時47分 仕事を終えたF-16が2機続けて離陸しました。



「普天間飛行場、元は田んぼ」「地主年収、何千万円」のウソ (No. 234 の裏面)

安倍晋三首相に近い自民党の若手国会議員ら約 40 人が 25 日、党本部で開いた憲法改正を推進する勉強会「文化芸術懇話会」で百田氏が発言した「元は田んぼ」「地主の年収」について。

百田尚樹氏が「田んぼで、何もなかった」とする米軍普天間飛行場が建設された場所は沖縄戦の前、宜野湾村の集落がありました。宜野湾市史によると、1925 年は現在の飛行場に 10 の字があり、9,077 人が住んでいました。最も大きかった宜野湾は村役場や宜野湾国民学校、南北には宜野湾並松と呼ばれた街道が走り、生活の中心地でした。

飛行場は、まだ沖縄戦が終結していない 1945 年 6 月、住民が収容所に入っているうちに、米軍が土地を占領して建設を始めたもの。住民が帰村を許されても、多くの住民は元の集落に戻れず、米軍に割り当てられた飛行場周辺の土地で、集落の再編を余儀なくされました。

百田尚樹氏は「基地の地主はみんな年収何千万」と発言。しかし、地主の 75 %は 200 万円未満の軍用地料しか得ておらず、実態は百田氏の発言した内容と大きくかけ離れています。

沖縄防衛局が発表した 2011 年度の軍用地料の支払額別所有者数（米軍・自衛隊基地）によると、地主 43,025 人のうち 100 万円未満の地主が全体の 54.2 %に当たる 23,339 人で最も多い。次いで 100 万円以上～200 万円未満が 8,969 人で 20.8 %を占め、200 万円未満の割合が 75 %にのぼりました。1,500 万円以上は 3,378 人で 7.9 %です。

ダイオキシン、基準値の 2 万 1 千倍 沖縄市米軍基地跡地のドラム缶

琉球新報 6 月 30 日の配信で、驚くべき発表がありました。基地の環境汚染は大問題です。

【米軍基地返還跡地の沖縄市サッカー場から汚染物質を含むドラム缶が発見された問題で、沖縄防衛局（井上一徳局長）は 6 月 29 日、缶のたまり水（未ろ過水）から、水質環境基準値の 2 万 1 千倍のダイオキシン類を検出したと発表した。ドラム缶付着物の全 17 検体の全てからダイオキシン類を検出。缶の付着物からは、発がん性が指摘されるジクロロメタンが環境基準値の 45 万 5 千倍の高濃度で検出された。ドラム缶は 2 月に発見された計 17 本。たまり水は地下 3 ～ 5 メートルの地点で 2 検体採取し、ろ過後は基準値の 29 倍、150 倍まで数値が下がった。沖縄防衛局の重政返還対策課長は「缶や底面土壌、たまり水は全て回収した。県の地下水調査や周辺河川、河口の底質調査でも基準値の超過はない。周辺に影響を及ぼす可能性はない」と話した。】

【資料】CV-22オスプレイの最低飛行高度 出典：米空軍の CV - 22 作戦手順書(2011.11)より

(備考)

FLIR (赤外線暗視装置)

NVG (暗視ゴーグル)

TF (地形追従システム)

1 フィート=0.3048 メートル

50 フィート=約 15 メートル

100 フィート=約 30 メートル

200 フィート=約 60 メートル

300 フィート=約 90 メートル

500 フィート=約 150 メートル

3 マイル= 4827 メートル

モード	全般	低 空 飛 行 訓 練			夜間飛行 NVG,TF 無し
		山岳地帯	山岳地帯以外	FLIR 無し	
ヘリ・ 転換 モード	地上 100 フィ ート以上	設定高度 100 フィート 以上	地上 50 フィート 以上	気圧計高度 500 フィート 以上	3 マイル以内 最高点+ 500 フィート以上
航空機 モード	地上 300 フィ ート以上	設定高度 200 フィート 以上	地上 100 フィート 以上	気圧計高度 100 フィート 以上	3 マイル以内 最高点+ 500 フィート以上